児童に見られるつまずき

　自分の考えが効果的に伝わるように、理由を明確にして根拠を挙げて書くことができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　主張に対する理由とその根拠の示し方についての意見のつながりがわかるように板書に整理することで、自分の主張に沿った理由とその根拠を明確にできるようにする

指導事例集ｐ．６９

１　学年・単元名　　第６学年　自分の投書を新聞に投稿しよう

『新聞の投書を読み比べよう』（書くこと）

２　単元目標

　　自分の主張が伝わるように、理由を明確にして根拠を挙げて投書を書く。

３　単元の内容

　　・理由とその根拠を明確にして自分の主張を投書するという単元の見通しを持つ。

　　・自分の主張に沿った理由とその根拠の挙げ方、書き方など読み手を説得するための工夫を

学ぶ。

資料：ワークシート①②③

記入済みワークシート

　　・主張を明確にし、理由とその根拠を挙げて投書を書く。

資料：ワークシート④⑤

記入済みワークシート

　　・投書を交流し、新聞社へ送り、単元を振り返る。

資料：児童の成果物

４　本時の目標

読み手を説得するための理由や根拠と予想される反対意見に対する反論の書き方を理解することができる。

参考：板書

５　本時の展開

|  |  |
| --- | --- |
| 学習活動 | 指導・支援の留意点と評価（☆）  **太字：つまずきに対する手立て** |
| １．学習課題を知る。  ２．『おこづかいは必要か』のテーマに対する自分の主張と、根拠の示し方を発表する。  「私は、おこづかいは○○だと思います。理由は、△△だからです。～（根拠）」  　＜必要＞  　・自分の経験　➡　修学旅行　遠足のおやつ  　・聞いたこと　➡　一人暮らしの兄弟などから  ・資　料　　　➡　本やインターネット  　・言葉の引用　➡  ＜必要ない＞  ・自分の経験　➡　むだづかい　失くしてしまう  ・聞いたこと　➡　テレビ  ・資　料　　　➡　本やインターネット、  アンケート  ・言葉の引用　➡  ３．自分の主張に対して予想される反対意見に対する反論を書く。  ＜必要に対する反論＞  ・お金の貸し借り　⇒　判断する力の練習  　　　　　　　　　　　失敗は成功のもと  ・考えて使えるようになる  　⇒　トラブルになっては意味がない  ４．本時をふり返り、次時の予告をする。 | ・「おこづかいはあった方が良いか」について、自分の主張と根拠をはっきりさせ、投書を書くことを確認する。  自分の主張の理由と根拠をはっきりさせ、投書を書こう！  ・一人学びのワークシートで自分の主張や理由・根拠を振り返り、根拠を選んだ理由が伝わるように意識して発表させる。  ワークシート①使用  ・根拠が理由に適したものになっているか、意識して聞くよう声かけをする。  ・理由と根拠のつながりがなかったり、分かりにくかったりする時には、こちらから問いかけて気づかせる。  ・理由や根拠を聞いて、考えが変わった児童がいた時には、根拠を挙げて理由を述べる良さが感じられるよう立ち止まり、声をかける。  **・理由と根拠の違いを視覚的に認識しながら、２つをつなげてとらえられるように板書で整理する。**  ・板書を見て本時の学習をふり返り、自分の主張と反対の意見に対して反論を書くことを理解させる。  ワークシート②③使用  ・２の活動で出てきた意見を参考にしても良いことを伝える。  ・自分の意見に沿った文章となるよう、机間指導で声かけをする。  ・意見が持ちにくい児童が多い場合には、グループごとにアドバイスを出し合いながら考えさせる。  ・自分の投書のテーマから、書きたい主張をイメージさせ、投書を書くことへの意欲を持たせる。  ☆読み手を説得するための理由や根拠と、予想される反対意見に対する反論をつなげて書いている。 |

６　つまずきの解消に向けて

（１）単元における予想されるつまずき

　　①単元内のつまずき

　　　・自分の投書のテーマに対する「意見や主張」をはっきりさせること。

　　　・理由と理由につながる根拠を考えること。（主張に沿った文章を書くこと）

　　②これまでのつまずき

　　　・目的や必要に応じて、理由や事例を挙げて書くこと

　　　・収集した情報を効果的に使い、説明する文章を書くこと

（２）つまずき解消に向けた指導上の留意点

　　　・「～するのが良い」「～という考えです」「～が大切だと思う」「～に賛成・反対です」など、主張を述べる際の文末の例を提示し、自分の意見や主張をはっきりさせる。

　　　・理由と根拠の違いをはっきりさせておく。

　　　・自分の根拠や文章が、主張につながっているかを確認させながら書かせる。